

群 教 セ	G02 - 03
	令7.290集
	社会 - 中

社会的事象を多面的・多角的に考える ことのできる生徒の育成

— 「タチバトク」の活動を通して —

特別研修員 田中 美帆

I 研究の概要

1 主題設定の理由

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説社会編では、社会科の目標の一つとして、「社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う」と述べられている。特に近年、SNS等の普及により、子供たちが接する情報は関心や嗜好に応じて偏りが生じやすい。その結果、事象の捉え方や判断が一面的となり、視野の狭さにつながるおそれがある。そのため、自他の立場や視点を意識して事象を捉え、多様な視点から考察する態度を育成することが必要である。生徒が自分とは異なる価値観や立場を理解し、社会的事象を根拠に基づいて多面的・多角的に考え、対話・交流を通してその考えを広げ深める学習過程を授業の中に位置付けることが重要である。

研究協力校の生徒は、教師の問いかけには意欲的に発言することができ、ペア学習やグループ活動でも協力して意見を出したり、話し合ったりすることができる。一方で、社会的事象や社会科の学習内容にあまり興味・関心をもてない生徒も多く、授業の中で様々な立場で考えたり、視野を広くもって多面的・多角的に考えたりすることに課題が見られる。

そこで、社会的事象に関して興味・関心をもち多面的・多角的に捉えて考えを深めてほしいと考え、授業中の生徒の活動として「タチバトク」を設定し、活用した。「タチバトク」の有効性を検証し、成果と課題を探ることで、社会科授業の改善を図りたいと考え本研究テーマを設定した（図1）。

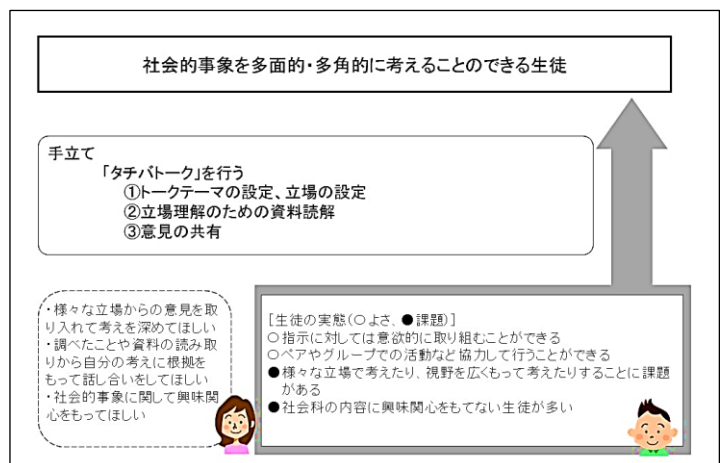


図1 研究のイメージ

2 具体的な手立て

手立て 「タチバトク」を行う

「タチバトク」は以下の①～③の方法をとる総合的な活動である。

① トークテーマ・立場の設定

トークテーマとは、学級全体で共有する話題を指す。生徒は提示されたトークテーマに基づき、所定の立場に立った場合にどのように考え、判断し、行動するかを想定しながら思考を深める。内容は、本時のねらいを達成するために生徒に考えさせる必要があるものを設定する。生徒の思考が広がり、かつ自己決定しやすい内容にする。

また、トークテーマについて話し合うために、必要な立場を設定し、グループで分担する。学習する時代や内容に関連する人物や役職、身分、国など様々な立場から考えることで、多角的な視点で理解を深めることをねらいとする。

② 立場理解のための資料読解

トークテーマや立場を設定し話し合う際に、自分の思い込みや勝手なイメージから考えるのではなく、資料の読み取りを行うことで生徒は歴史的事象の背景を理解し、根拠をもって考察を行う。その際、生徒が多面的に情報を捉えられるようにするため、複数の資料を精選して活用する。

③ 意見の共有

意見共有は大きく二つのパターンで設定する。

第一に、トークテーマについて同じ立場の生徒同士でグループ内共有を行う。グループで出された意見を、根拠資料と共にワークシートに記入し整理する。第二に、他の立場の意見や、同じ立場の他グループで出された意見を取り入れる共有を行う。

これら二つの意見共有を通して、生徒が多様な見方・考え方を取り入れ、自身の考えを再構成できるようにする。

II 実践例

1 単元名 「武家政権の内と外」(第1学年・2学期)

2 授業の実際

本単元は、中学校学習指導要領(平成29年告示)社会における歴史的分野の「B(2)中世の日本」に位置付けられ、武家政権の展開と、東アジア世界との密接な関わりについて理解し、中世の社会の変化の様子について多面的・多角的に考察し表現することを目的とする。13世紀後期は、二度にわたる蒙古襲来や幕府政治への御家人の不満などを背景として、鎌倉幕府と御家人の関係が揺らいでいく転換期である。本単元を通し、複数の資料を根拠に自分の考えを論理的に表現する力や、他者の意見を取り入れながら物事を俯瞰的に捉える力を育成することを目指した。

本時は全4時間計画の第1時に当たり、蒙古襲来が日本に与えた影響について多面的・多角的に捉え、表現することをねらいとする。まず、全体で13世紀頃の東アジアの様子などの概要を確認し、その後タチバトークを行った。グループで出た意見をクラス全体で発表した後、振り返りを行った。

(1) 手立て①(トークテーマ・立場の設定)について

本時のねらいである「蒙古襲来が日本に与えた影響について多面的・多角的に捉え、表現すること」の達成に向けて、蒙古襲来という外圧に対し、日本がどのように対応し、その結果として政治や社会にどのような影響が生じたのかを考えられるよう、二つのトークテーマと、それぞれに対応した立場を設定した。

一つ目のトークテーマ「元が攻めてきた！」では、外敵の襲来への日本の対応に着目できるようにした。二つ目のトークテーマ「蒙古襲来後、恩賞が不足していた！」では、鎌倉時代の特色である恩賞を介した主従関係に着目し、蒙古襲来を経て幕府と御家人の関係がどのように変化したのかを捉えられるようにした。

また、生徒が鎌倉時代の主従関係を意識し、武家政権の意思決定とその担い手の関係を捉えられるようにするため、考察の立場を「幕府」と「御家人」の二つに設定した。これにより、生徒は自分に与えられた立場に基づいて資料を読み取り、根拠をもって意見を形成し、表現できるようになると考えた。

授業では、生徒を二つの立場に分け、各立場が置かれていた状況や両者の関係について、同じ立場の生徒同士でグループ内共有を行いながら確認した。その上で、各トークテーマについてそれぞれの立場に立ち、どのように考え、どのように行動するかを協議した。クラス全体共有の場面において、もう一方の立場からの意見にも触れられるようにした。

(2) 手立て②（立場理解のための資料読解）について

使用した資料は、経済面、軍事面、文化面、政治面、国際面など様々な内容を読み取ることのできる資料であり、教科書や資料集から精選したものである（表1）。一枚のプリントにまとめて提示することで、生徒が見比べながら意見共有しやすいようにした。

生徒はどの資料を根拠に用いたかを示した上で、その立場からの意見や行動を記入した。この手順を活動のルールとして徹底することで、根拠資料を基に自分の意見を述べるができるようにした。

幕府の立場のグループでは、資料Cを基に「博多湾に来る船をなるべく落とす」、資料Eを基に「防塁を築いて元軍の上陸を防ぐ」といった記述が見られた（図2）。元軍が襲来した場所や、それを防ぐための方策などを、資料から捉えており、社会的事象について位置・空間的な広がり観点から考えることができていた。

御家人の立場のグループでは、資料Aを基に「モンゴルの領土はとて大きいから勝てる気がしない」といった記述が見られた（図3）。これは、モンゴル帝国や元を中心とする東アジア世界の広がりの中で日本を位置付けながら軍事力の差を推測しており、東アジアの国際関係と関連させて社会的事象を考察できていたことを示している。また、「領地がもらえるから戦おう」という記述が見られたことは、御家人という立場を、これまでの学習で獲得してきた御恩と奉公の仕組みを踏まえて理解し、立場に即して判断しようとしていることを示している（図3）。

表1 学習プリントに提示した資料内容一覧

A	モンゴル帝国の拡大(13~14世紀)
B	元からの手紙
C	文永の役・弘安の役における元軍の進路
D	元軍と戦う御家人(竹崎季長)
E	元軍を防ぐために築かれた防塁
F	領地の分割相続
G	守護の配置・北条氏一門の守護数
H	元寇後に恩賞を求める御家人(竹崎季長)
I	永仁の徳政令
J	神国思想(神風信仰)

幕府

タチバトーク①

元が攻めてきた!!
幕府 どのようなことを考えただろう?

博多湾に来る船をなるべく落とす	C
御家人に戦わせる	D
元軍の上陸を防ぐ! → 防塁を築く	E
戦いにそなえて御家人の配置! → 守護の配置	G

図2 幕府の立場で考察したグループワークシート（部分）

御家人

タチバトーク①

元が攻めてきた!!
御家人 どのようなことを考えただろう?

国を守るために九州に武士を送って九州を守る。	C
せめてこたえてきたら戦う。	D
御家人に戦わせる。	D
てかいからかてる気がしない。	A
幕府に従おう	D
領地がもらえるから戦おう	DG

図3 御家人の立場で考察したグループワークシート（部分）

(3) 手立て③（意見の共有）について

各立場のグループにおいて、資料を基に意見を出し、共有してワークシートにまとめた後（次ページ図4・図5）、他グループの考えを参照して自分たちの考えを更新できるように、意見共有の

時間を設定した。具体的には、各グループが作成したワークシートを机上に掲示し、班員が自由に他グループのワークシートを見て回る形をとった（図6）。

見学中には、「（同じ立場でも）見ている資料が違う」「（自分は御家人の立場から考えたけれど）幕府はそう思っているのか」といった気付きがあった。見学後は自分のグループに戻り、ワークシートに他グループから得た意見を色分けして追記した。二つの立場から考えることで、社会的事象を複数の側面から理解し、歴史的課題について広い視野から考察する姿勢が見られた。



図4 グループ内での意見共有



図5 グループワークシートへの記入



図6 他グループとの意見共有

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 「タチバトーク」によって、同一の社会的事象であっても立場によって捉え方が異なることを実感し、当時の状況を多面的・多角的に考えることができた。生徒の振り返りは、一面的な記述にとどまるものから、立場や根拠資料を踏まえた記述へと変化が見られた。授業後の感想にも、「同じグループや他グループの様々な意見を聞き、資料を基に考えることで、新たな視点や考えに気付くことができた」といった記述が見られ、複数の根拠資料を用いた意見交流が多様な視点の獲得につながったと考えられる。
- 歴史における課題や事象を当事者の視点で捉えることで、生徒が興味・関心をもつきっかけとなった。また、各立場から資料を読み取り、それを示しながら意見を述べる活動を通して、根拠に基づいて考察する姿が促された。さらに、資料を基にした意見交流を重ねることで、自分の意見を相手に伝えたり、相手の意見を踏まえて言い直したりする場面が見られ、表現力の育成にもつながった。

2 課題

- 各トークテーマにおける活動のゴールが不明確であったため、議論の深まりや生徒の主体的な取組に差が見られた。今後は、各トークテーマの到達点（まとめ方やアウトプットの仕方等）を明確に示すことで、より深い議論と主体的な取組につなげていきたい。また、活動に入る前に動機付けを行い、学習の流れや目的を共有することで、取組の充実につながると考える。
- 資料の選択や読み取りに時間を要し、意見交流やまとめの時間を十分に確保できない場面があった。今後は、資料読解に必要な時間を確保した上で、読み取りの手順や時間配分といった枠組みを事前に示したり、グループで資料の読み取りを分担したりする等の工夫により改善を図りたい。

IV 資料

1 学習プリント

モンゴル帝国の拡大
A:モンゴル帝国の拡大 (13~14世紀)
詳しくは 教科書 P.207? 資料集 P.277?

元からの手紙
B:元からの手紙

文永の役・弘安の役における元軍の進路
C:文永の役・弘安の役における元軍の進路

元軍と戦う御家人
D:元軍と戦う御家人(竹崎季長)

元軍を防ぐための防塁
E:元軍を防ぐために築かれた防塁

領地の分割相続
F:領地の分割相続

守護の配置・北条氏一門の守護数
G:守護の配置・北条氏一門の守護数

元寇後に恩賞を求める御家人
H:元寇後に恩賞を求める御家人(竹崎季長)

永仁の徳政令
I:永仁の徳政令(1297年)

神国思想(神風信仰)
J:神国思想(神風信仰)

めあて

幕府 or 御家人 (○で囲もう)

タチバトク① グループでの話をメモしておこう
どのように考えたのだろう?

タチバトク② グループでの話をメモしておこう
どのように考えたのだろう?

本時の振り返り

組 番 名前

2 グループワークシート

幕府

タチバトク①
元が攻めてきた!!
幕府 はどのようなことを考えたのだろう?

他のグループをまわってみた意見や付け足し意見は赤で付けたそう!

幕府

タチバトク②
蒙古襲来後、恩賞が不足していた。
幕府 はどのようなことを考えたのだろう?

他のグループをまわってみた意見や付け足し意見は赤で付けたそう!

御家人

不足していた。
ようなことを考えたのだろう?

他のグループをまわってみた意見や付け足し意見は赤で付けたそう!

めあて：蒙古襲来は日本にどのような影響を与えたのだろう?～幕府・御家人の立場から考えよう～
(黒い線!) 幕府・御家人両方の立場から考えよう!

めあて：蒙古襲来は日本にどのような影響を与えたのだろう?～幕府・御家人の立場から考えよう～
(赤い線!) 幕府・御家人両方の立場から考えよう!